馬毛島の海藻相．鹿児島国立公園候補地学術調査報告．後編：1-12．—— 1960．奄美群島，与論島の堡礁上の海藻相（其一）．鹿児島大学南方産業科学研究所報告 2(2)：5-10．—— 1967a．徳之島の海藻．奄美群島自然公園（国立公園・海中公園）候補地学術調査報告書 25-44．—— 1967b．与論島の海藻．奄美群島自然公園（国立公園・海中公園）候補地学術調査報告書 73-86．山田幸男 1937．こなはだ属に就いて（其一）．植研 13：861-871．—— 1938a．こなはだ属に就いて（其二）．植研 14：1-10．—— 1938b．こなはだ属に就いて（其三）．植研 14：77-89．Yamada, Y. 1938b. The species of *Liagora* from Japan. Sci. Pap. Inst. Algol. Res. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ. 1(1)：1-34, pl. 1-15．—— and T. Tanaka 1938. The marine algae from the Island of Yonakuni. Sci. Pap. Inst. Algol. Res. Fac. Sci. Hokkaido Imp. Univ. 2(1)：53-86．Weber van Bosse 1921. Liste des algues du Siboga. Siboga-Exped. Monogr. 59b：197-203.

□Healy, A. J. & E. Edgar：**Flora of New Zealand** vol. III. 220 pp. 1980. The Government Printer, Wellington, New Zealand. $18.50. Flora of New Zealand は vol. 1 (1961), vol. 2 (1970) によって，シダ植物から被子植物までの植物誌は一応完成していた。今回出版された第3巻は，前2巻が野生植物に限定されていたのに対し，帰化植物も含めて再編成したもので，第3巻はイネ科を除いた単子葉植物にあてている。第2巻が単子葉植物であるので内容は重複しているが，第3巻にはオモダカ科，サトイモ科など，第2巻にはない科がふえている。第3巻とするよりも改定版とすべき内容で，その方が誤解がないであろう。ニュージーランドは帰化植物が非常に多い所で，第3巻に収録してある503種のうち168種が帰化植物であることもこれを示している。自然植生がどうなっているのか気になることである。（山崎　敬）

□Holm L'R. J. V., Pancho. J. P., Herberger & D. L. Plucknett：A Geographical Atlas of World Weeds. 391 pp. 1979. John Wiley & Sons. ¥10,500. 約8000種の雑草を学名の ABC 順に並べ，世界124ヶ国における存否を5段階に分けて示したリストで，分布図や植物図はないが，雑草の分布を世界的につかむには便利である。5段階とは，S：重大な有害雑草，P：基本的な雑草，C：普通の雑草，X：雑草的なもの，F：フロラ中に見られるが雑草か否か不明なもの，となっている。最も広範かつ有害な種は *Cyperus rotundus*（ハマスゲ）で，91ヶ国にわたり，我が国を含めて52ヶ国でSランクに入れられている。こういう調査は情報源が雑多なのでやむをえないことだが，ヒヨドリバナがネパールではこの属の唯一の雑草で，Sランクになっていたりする。緒言は日本語，アラビヤ語，ヒンズー語を含む10ヶ国語で記され，国名の略語表にもこの10ヶ国語のスペルが記されている。（金井弘夫）